

研究テーマ

多文化・多言語の豊かさに触れさせ、自己肯定感を高めながら、
日本語で授業に参加できる子の育成を目指して
～在籍学級を生きた学びの場にするための指導の追求～

講義テーマ

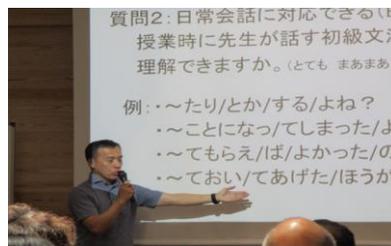
やさしい日本語の概要と口語・文語におけるやさしい日本語化のポイント

講師 常葉大学 外国語学部 坂本 勝信 氏

やさしい日本語のニーズの高まり

日本在住の
外国人(大
人・子供)
の増加

理解度
英語 2割
やさしい
日本語 6割



「やさしい日本語」についての重要事項(まとめ)

1. 「災害時のやさしい日本語」は「やさしい日本語」のみで表示。「便り・成績表のためのやさしい日本語」「教育(授業)のためのやさしい日本語」など、分野によって「やさしい日本語」の在り方が異なる。
2. 授業時は「普通の日本語」に「やさしい日本語」を添える。
3. 外国人児童・生徒は、日本語で生活しなければならないので、日本語の習得を促進し、教科学習や言語生活に適應させる。
4. 「普通の日本語」も「専門用語」(光合成・輸入・垂直など)も、導入時は「やさしい日本語」を添える。理解が深まるに應じて、その使用頻度を減らし、最終的にはゼロにすることを旨とする。
5. 「やさしい日本語」に正解はない。子供によって日本語力に差があるので柔軟に對應する。
6. BICS(生活言語能力)がある児童・生徒は、「忘れちやった」「やらなきや」などの短縮形は日常で使う頻度も多く、理解できる。しかし、短縮形のもとの形(忘れてしまった、やらなくては)は、教科書で書かれているため、知らせる必要がある。支援者は両方を同時に使う方がよい。
7. BICSが身に付いていても、「～てもらえばよかったのに」「～ておいてあげたほうがいいね」のような初期文法の組み合わせとなると、正確なニュアンスがつかめないことがある。そのため、話者の意図や気持ちが読み取れず、人間関係に支障が出たり、指示を誤って受け取ったりすることがある。「やさしい日本語」を添えるとよい。
8. 生成AIをうまく活用すれば、「やさしい日本語」化の大きな手助けになる。生成AIが作成した「やさしい日本語」の適切性を判断する能力や、より分かりやすいプロンプト(指示)を入力する能力を教師が養う必要がある。

口語・文語におけるやさしい日本語化のポイント（グループワーク）

- ・ 複文（一文に2つ以上の述語）→単文（一文に1つの述語）+接続詞+単文
- ・ 使役（せる、させる）受身（れる、られる）敬語の尊敬語、謙譲語を避け、「やさしい日本語」で別の言葉に言い換える（書き換える）。
- ・ 多義語（出る、進む、しっかり、姿など）は意味が伝わりにくいため、「やさしい日本語」で言い換える（書き換える）。
- ・ よく使われるが、難しい漢字にはルビを振り、<>を使って「やさしい日本語」での補足説明を添える。（）を使って具体的な例を挙げる。
- ・ 文を分かち書きにして見やすくする。
- ・ 保護者向けの便りでは、絶対に伝えたい内容だけに絞る。時候の挨拶はカットする。「いつ」「どこで」「持ち物」を簡潔に伝え、日程は手順が分かるように、時系列に並べて表（フローチャート）にする。
- ・ 絵や写真、ジェスチャー（手で動作化）で、かなり伝わりやすくなる。



<グループでの話し合い>



<模造紙に記入>



<グループごとに発表>

授業構想検討会

第3回研修会 令和7年11月5日(水) 授業研修会

会場：佐鳴台小学校

4年 JSL 国語科（先行取り出し授業）「未来につなぐ工芸品 工芸品のみりよくを伝えよう」

永田 直美 教諭

4年 JSL 国語科（在籍学級）「未来につなぐ工芸品 工芸品のみりよくを伝えよう」

杉本 優依 教諭

3年 JSL 国語科（先行取り出し授業）「3年とうげ」

鈴木 彩希 教諭



<授業説明>



<グループでの授業構想検討会>



<江間指導主事による指導・助言>